

生産出荷近代化計画の概要

[野菜指定産地名]	中新田
[指定野菜の種別]	秋冬ねぎ
[指定区域]	色麻町，加美町
[指定年月日]	平成9年5月30日
[計画樹立年月日]	平成12年3月31日
[計画変更年月日]	令和3年3月31日
[変更後の計画概要]	

○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

県内一の秋冬ねぎの産地である当地域では，補助事業等の活用により，パイプハウスや省力化機械等の導入が進み，単位農家当たりの作付規模が拡大してきている。しかし，担い手の高齢化により作付けを断念する生産者もいることから産地としては現状維持の面積となっている。

また，品質面において，農業改良普及センター等の指導により，生産・出荷各段階での技術改良が着実な成果を上げ，市場評価の高い商品の安定供給を実現している。

今後とも，ゆるぎない長ねぎ産地の実現に向け，より安定した生産体制を確立し，面積拡大を推進するため，施設・機械等の一層の充実，新技術の積極的な導入等を図り，生産基盤の整備を進めていく。

生産，品質等向上の具体的方策として，作業効率のアップとコスト低減のための省力化機械の一層の普及を目指すとともに，その効率的な共同利用体系の確立を目指す。また，平成19年に総事業費2,500万円で真空予冷庫を県単事業により導入。夏場の鮮度維持に向けた取り組みを実施。更には畜産経営から生じる家畜排せつ物を地域資源として有効活用する資源循環型農業を推進するため，平成21年7月，区域内に加美町土づくりセンターが設置され，翌8月から本格稼働している。これにより良質な堆きゅう肥の施用による土づくりをより一層推進するとともに，合理的，計画的な作付体系を確立する。販売面においては，一般青果，加工業務向けの契約栽培に取り組み新たな経営戦略の展開を目指す。

一方，兼業化の進展に伴う担い手不足や生産者の高齢化等による労働力の低下に対応するため，集出荷作業の共同化，さらには集出荷施設の整備も含めた省力生産体制の確立を早急に進めるとともに，地域内の労働力を有効に活用するための調整方策等についても検討していく。特に，意欲のある農業者については法人化等を念頭におきながら，その育成・指導にあたるものとする。

○生産出荷近代化の現状と目標

項目	現 状 (H29)	目 標 (R4)
作付面積 (ha)	39	35
生産量 (t)	572	481
出荷量 (t)	572	481
共販等量 (t)	554	413
共販等率 (%)	97	86
収量 (kg/10a)	1,440	1,360